

AOI TYO Holdings

2017年12月期 第2四半期

個人投資家向けIRセミナー資料

2017年9月6日

AOI TYO Holdings株式会社

目次

1. 事業環境
2. 連結決算概要
3. 連結業績予想
4. 各事業への取組み状況
5. 株主還元、株式情報

1. 事業環境

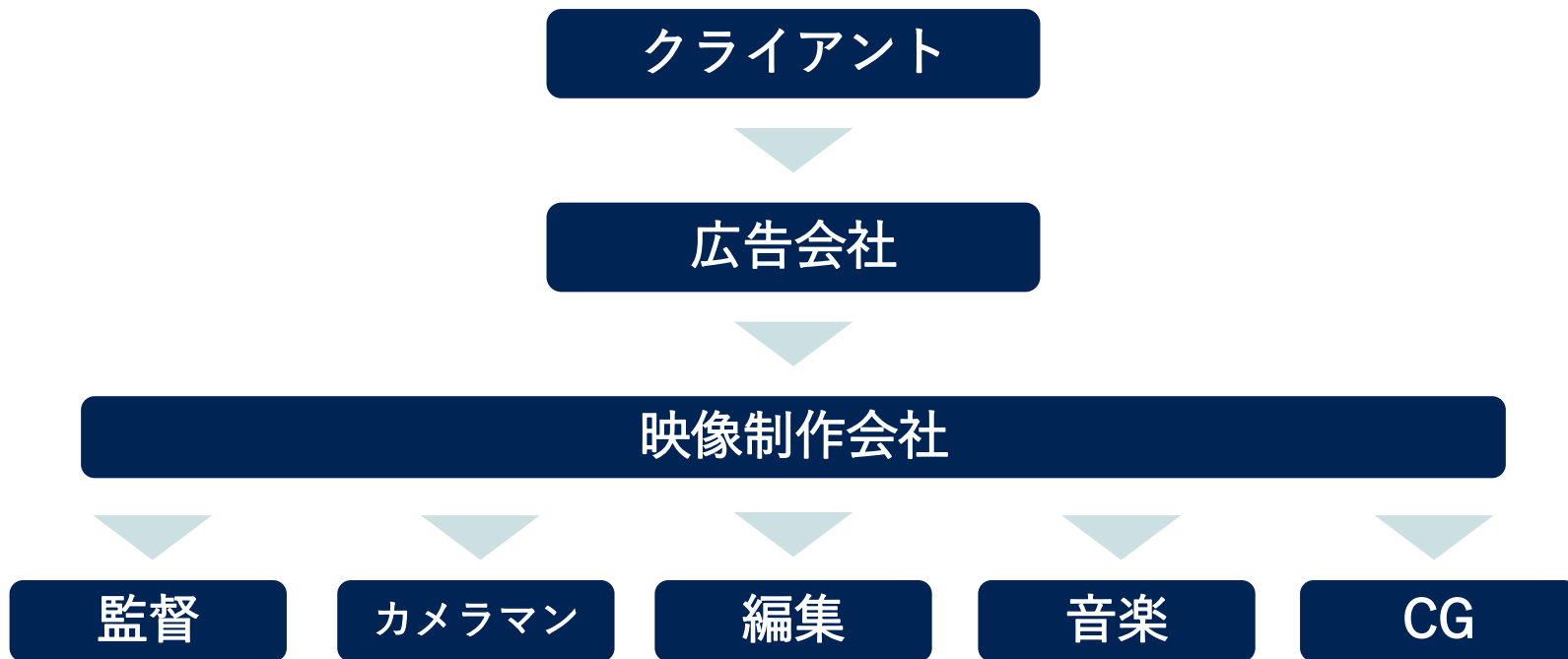
AOI TYO Holdingsの設立

- 2017年1月、AOI Pro.とTYOが経営統合、共同持株会社を設立



TVCM制作について

■ TVCM制作の流れ



事業環境

媒体価値の変化による
従来のTVCMモデルの変化

プリントレスによる
TVCM収益性の変化

映像を届ける手段が多様化

デジタル広告の台頭

コンテンツをメディアに
置くだけでは効果が出ない時代

事業構造の変化の必要性

合理化/効率化の必要性

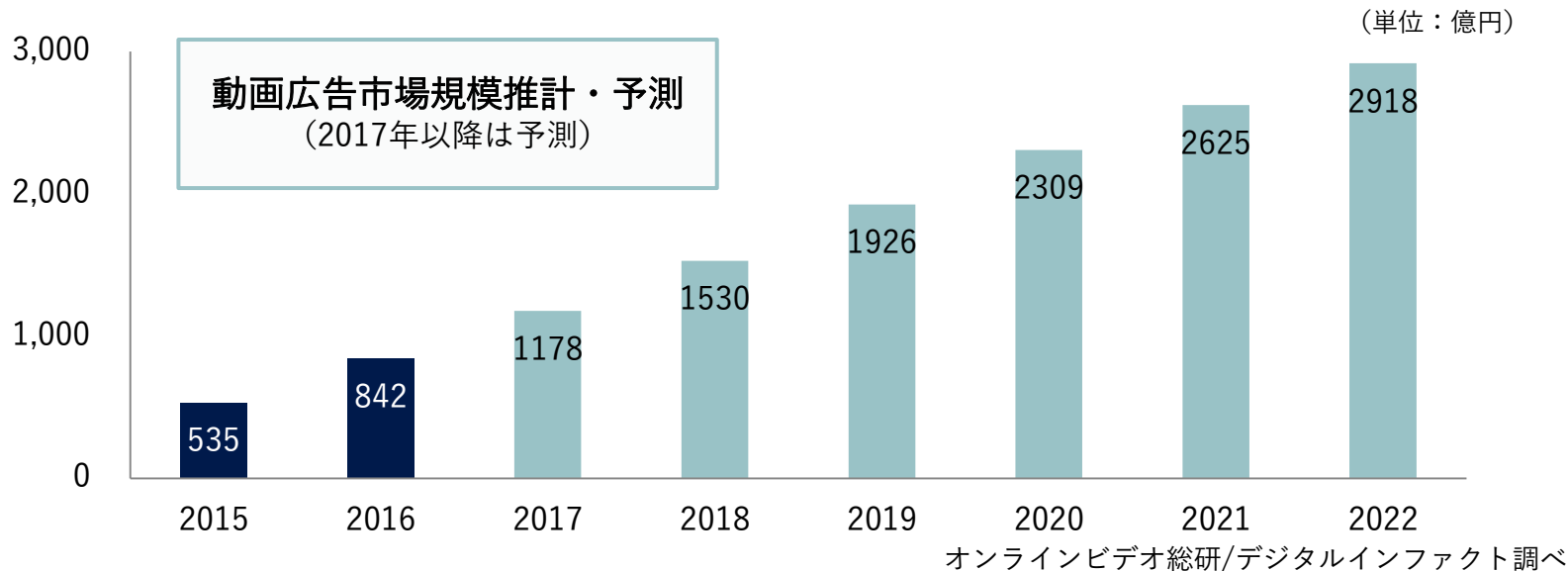
届けることを考える必要性

効果検証/PDCAの必要性

体験の提供の必要性

動画広告市場の動向

- 2016年の動画広告市場は842億円、前年比157%の成長率に
- スマートフォン動画広告需要の拡大が市場成長をけん引し、2020年には2309億円、2022年には2918億円に達すると予想



経営統合の進捗

■ 統合効果の早期実現に向け、下記の取組みを実施

テーマ	取組み状況	リリース	詳細
コーポレート部門の再編	2018年1月にAOI Pro.とTYOのコーポレート部門をHDに集約予定であり、オフィスは各部門ごとに統合済み		白金オフィス：経営企画部門 大崎オフィス：財務・IR・経理部門 目黒オフィス：人事・総務部門
	新規事業の開発・リサーチ及び海外での人材育成等を担う研究開発チーム（Pathfinder室）を新設	6/30	http://aoityo.com/ja/news/auto_20170629419852/main/0/link/pdfFile.pdf
成長領域への積極投資	WONDERFUL WORLD – VR Private Tour™	3/22	http://aoityo.com/ja/news/news3577621148256664077.html
	価値観クリエイティブコンソーシアム設立	6/27	http://aoityo.com/ja/news/news_20170627.html
	Ad Hack Venturesファンド設立	7/3	http://aoityo.com/ja/news/AHV_20170703.html
	VR ON AIR TEST	7/26	http://aoityo.com/ja/news/20170726.html
外部支出低減	業務効率化、受注体制の構築		実行利益率の向上についてはp.23「広告映像制作事業における取組み」をご参照ください。
	撮影機材レンタル事業の集約（予定）		

2. 連結決算概要

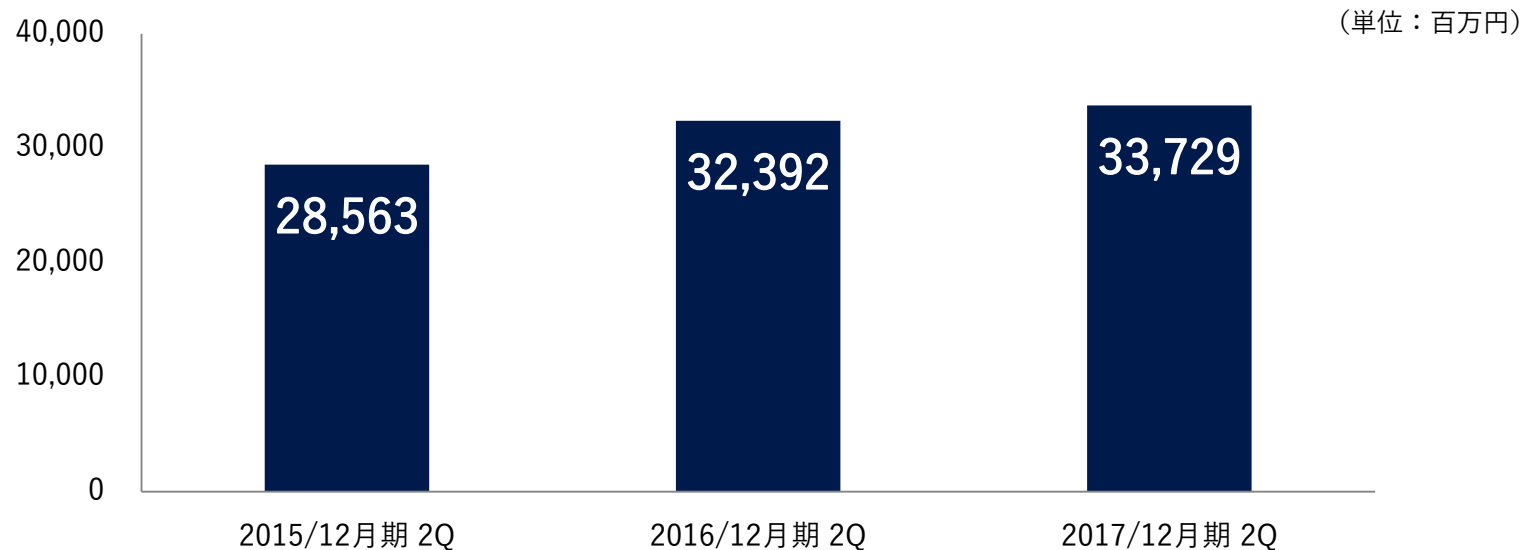
連結決算ハイライト

単位：百万円	2016年12月期 2Q実績	2017年12月期 2Q実績	前期比
売上高	32,392	33,729	+4.1%
営業利益	2,049	2,358	+15.1%
経常利益	1,837	2,305	+25.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	825	1,189	+44.1%
EBITDA	2,563	2,932	+14.4%

※前年実績値は、(株)AOI Pro.及び(株)ティー・ワイ・オーの暦年ベース（プロフォーマ、12月期末ベース）連結業績の単純合算数値を掲載

売上高の推移

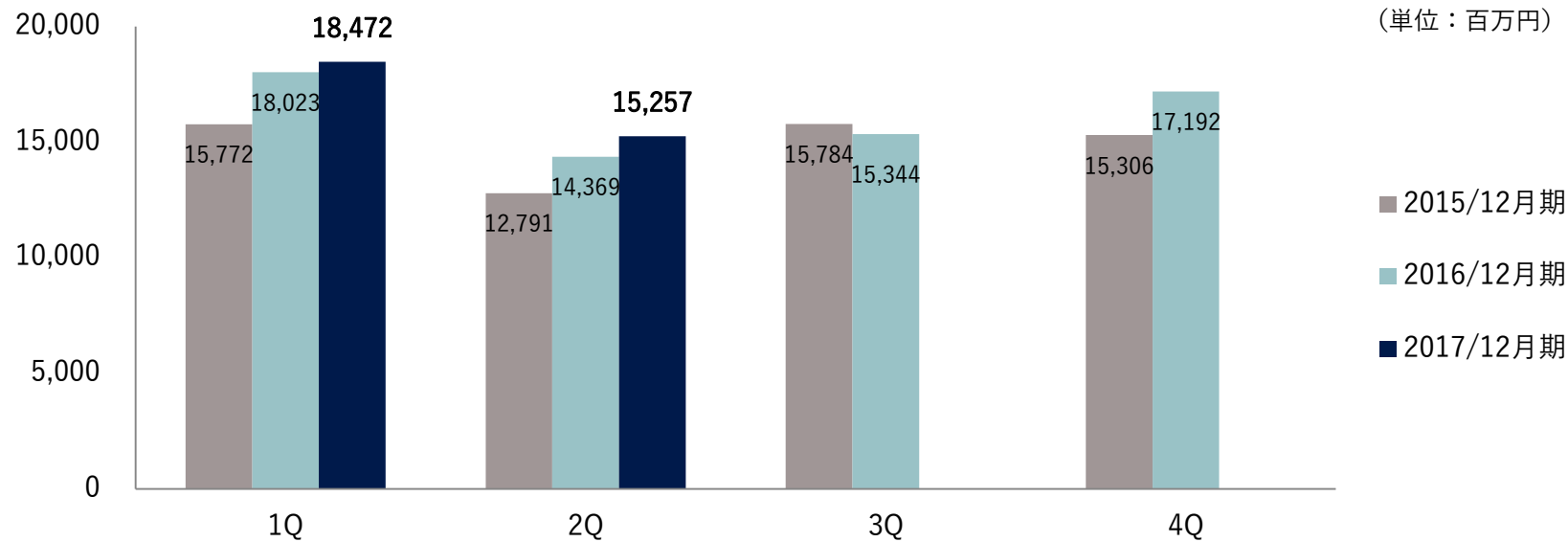
- TVCM等従来型メディアの広告制作市場が横ばいの中、売上高は堅調に推移



※ 2015年/2016年は、(株)AOI Pro.及び(株)ティー・ワイ・オーの暦年ベース（プロフォーマ、12月期末ベース）連結業績の単純合算数値を掲載

四半期別売上高推移

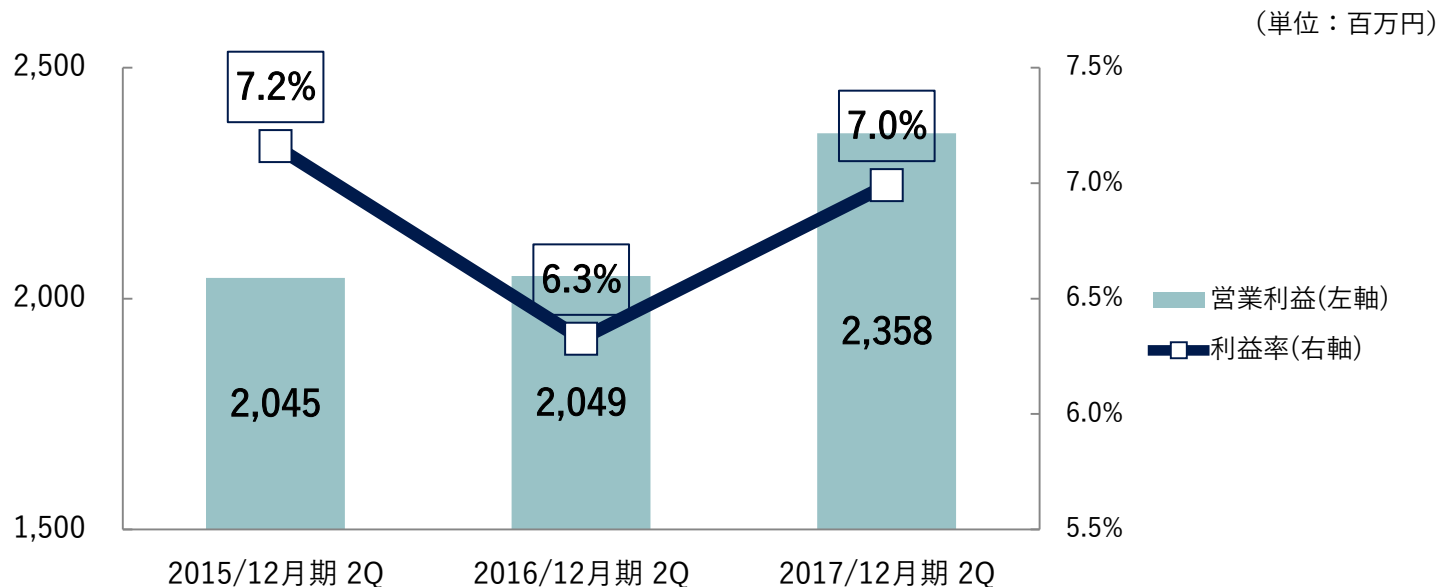
- 当2Qの受注高は33,499百万円、受注残高は14,016百万円と、今後も順調に推移する見込み



※ 2015年/2016年は、(株)AOI Pro.及び(株)ティー・ワイ・オーの暦年ベース（プロフォーマ、12月期末ベース）連結業績の単純合算数値を掲載

営業利益と営業利益率の推移

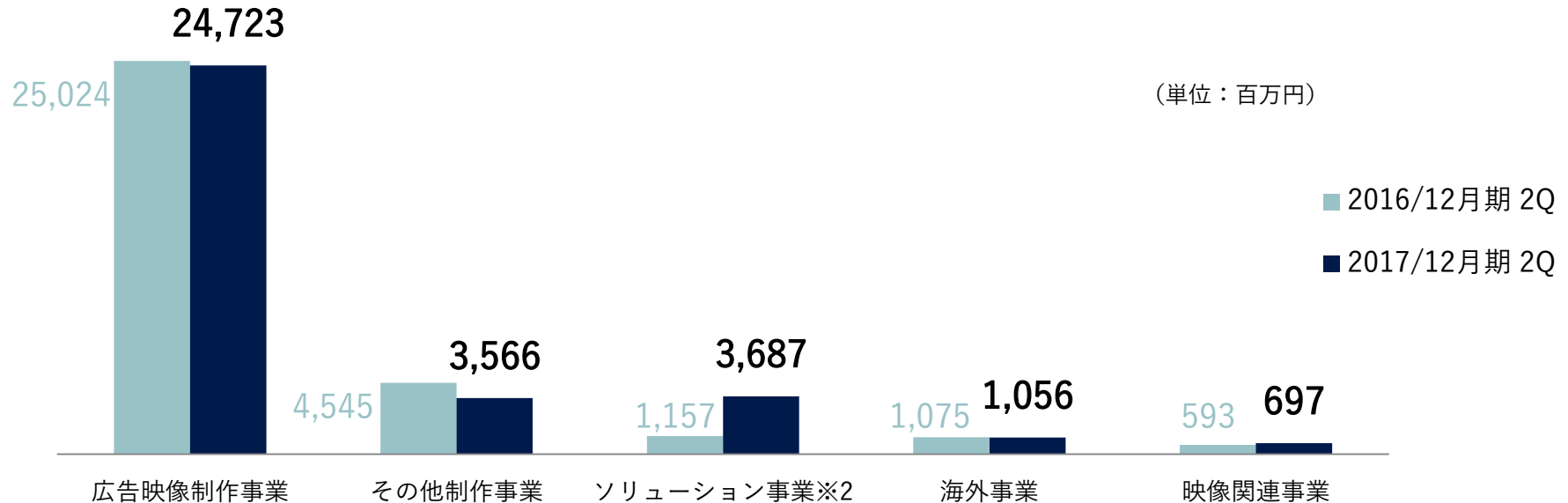
- 売上高の増加、案件受注段階からの厳格な精査・選別、収益管理の徹底が奏功し、前期比で利益率改善



※ 2015年/2016年は、(株)AOI Pro.及び(株)ティー・ワイ・オーの暦年ベース（プロフォーマ、12月期末ベース）連結業績の単純合算数値を掲載

事業区分※1別売上高

- 各事業が概ね堅調に推移した中、成長領域であるソリューション事業は前期比218.7%増加

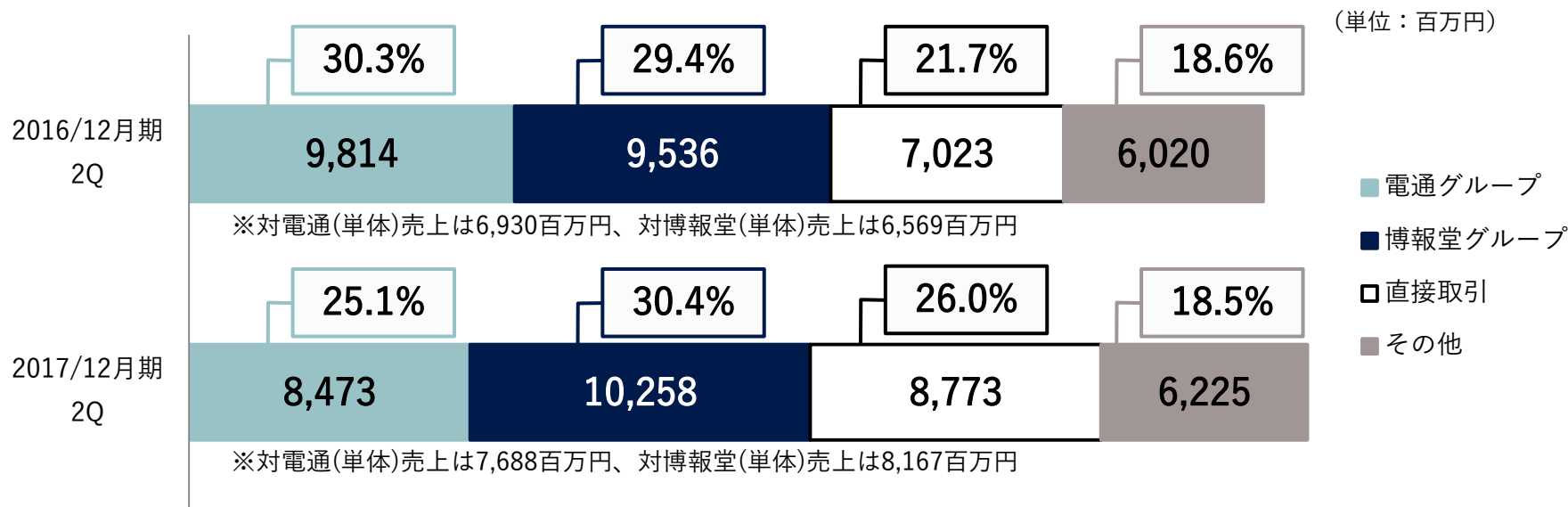


※1. 広告事業セグメント=広告映像制作事業、その他制作事業、ソリューション事業、海外事業 映像関連事業セグメント=映像関連事業

※2. ソリューション事業：顧客の問題解決のための施策を提供する事業（AOI Pro.体験設計部、TYO営業統括本部、Quark tokyoを合算）

顧客別売上高

- 国内広告業界の情勢を反映し、当社連結売上高の55.5%を電通グループ、博報堂グループが占める一方、広告主との直接取引が増加



※前年実績値は、(株)AOI Pro.及び(株)ティー・ワイ・オーの暦年ベース（プロフォーマ、12月期末ベース）連結業績の単純合算数値を掲載

連結貸借対照表サマリー

単位：百万円	2017年12月期 2Q	主な構成
流動資産	35,025	現金及び預金7,584百万円、受取手形及び売掛金20,369百万円、仕掛品5,861百万円
固定資産	17,244	有形固定資産8,085百万円、無形固定資産4,886百万円、投資その他の資産4,272百万円
資産合計	52,269	
流動負債	20,371	買掛金6,169百万円、短期借入金6,259百万円、1年内返済予定の長期借入金2,223百万円
固定負債	7,704	長期借入金2,374百万円、長期預り金3,501百万円
負債合計	28,075	
純資産合計 (総資産に対する比率)	24,193 (46.3%)	資本金5,000百万円、資本剰余金12,107百万円、利益剰余金6,410百万円
負債純資産合計	52,269	

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円	2017年12月期 2Q	主な構成
営業活動によるキャッシュ・フロー	△325	税金等調整前四半期純利益2,278百万円、 売上債権・たな卸資産の増減額 △3,852百万円、 前受金の増減額1,354百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	△944	有形・無形固定資産の取得による支出 △734百万円、 投資有価証券の取得による支出 △135百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	433	短期借入金の純増額1,896百万円、 長期借入金の返済による支出△976百万円、 配当金の支払額△274百万円
現金及び現金同等物の期首残高	3,155	
株式移転に伴う現金及び現金同等物の増加額	4,975	
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,289	

3. 連結業績予想

連結業績予想

- 設立後半年間の業績が想定を超えて好調に推移したことにより、前回の通期連結業績予想（2017年2月14日公表）を上方修正

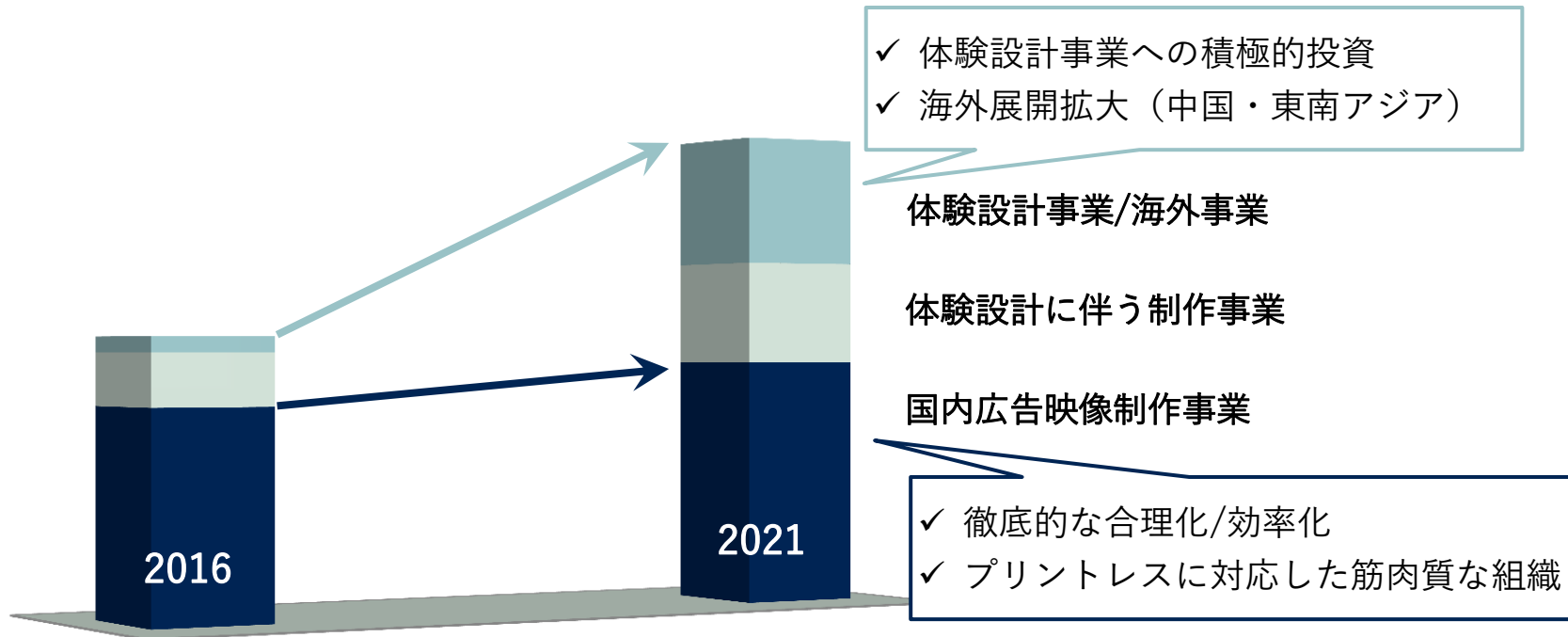
単位：百万円		2017年12月期 前回発表予想		2017年12月期 修正予想	
売上高		65,000		66,000	
営業利益		3,500		4,100	
経常利益		3,200		3,800	
親会社株主に帰属する当期純利益		1,400		1,850	
EBITDA		4,630		5,234	
単位：円 銭	第2四半期末	期末	合計	配当性向	DOE
配当予想	8.00	20.00	28.00	35.9%	2.9%

通期業績予想の進捗

単位：百万円	2017年12月期	2017年12月期		2017年12月期	
	上期実績	通期予想	前期比	下期必要額	前期比
売上高	33,729	66,000	1,072	32,270	△266
営業利益	2,358	4,100	678	1,741	368
(営業利益率)	(7.0%)	(6.2%)			
経常利益	2,305	3,800	837	1,494	368
親会社株主に帰属する 四半期/当期純利益	1,189	1,850	755	660	390

4. 各事業への取組み状況

事業戦略 - 成長イメージ



※体験設計事業：国内広告映像制作で培った技術、知見、リソースを活用し、VR/AR/MRをはじめとする、あらゆるコンテンツの制作を行うほか、データの収集・分析、データ分析を反映させたストーリーの設計を行います。

事業戦略 – 体験設計事業

テーマ

主な取組み

コンテンツ 開発・制作

- VR/AR/MR、IoT、AIなどの最新テクノロジーを活用したコンテンツの開発・制作
- 開発・制作力を差別化の軸に消費者に新しい体験を提供

体制・人材強化

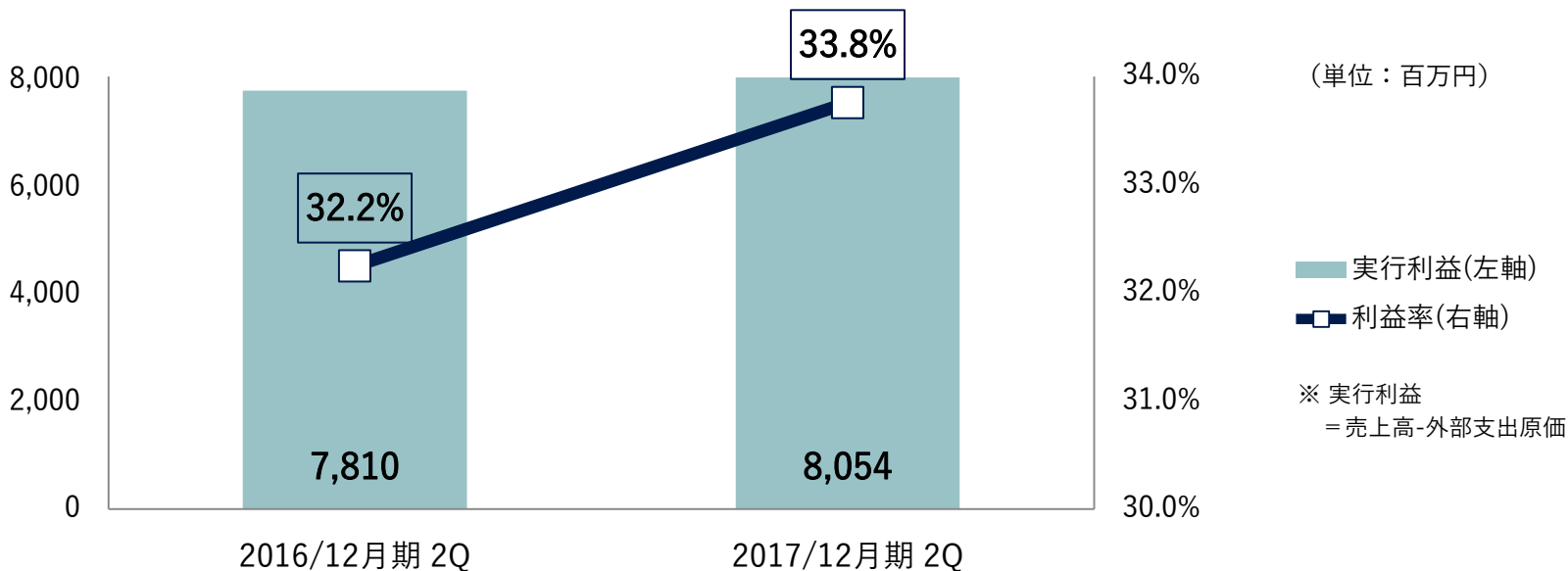
- イノベティブかつデジタルマインドに富む人材の確保とその人材が台頭しやすい社内環境作り
(コミュニケーションデザイナー、データサイエンティスト等)

積極投資

- 「行動と感情のリアクションデータ」の収集・蓄積、外部データとの融合
- ユーザー特性/感情分析、効果測定を行うスキーム及びITサービスの開発・構築

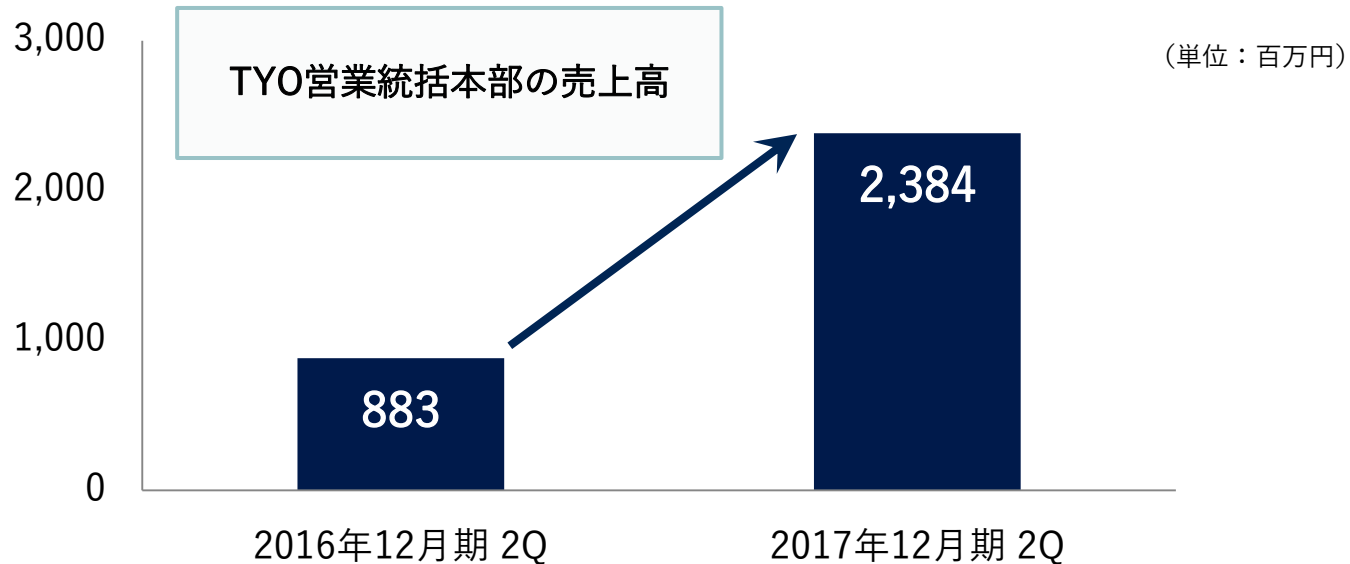
広告映像制作事業における取組み

- 案件受注段階からの厳格な精査・選別、売上原価管理の徹底等、より採算性重視の営業管理体制構築により、実行利益率は向上



ソリューション事業における取組み ①

- 広告主直接取引において、新規広告主から大型案件受注、既存広告主の案件拡大により、前期比で売上高は大幅に増加



事例紹介 – TYO

ベンチャー企業に投資する「Ad Hack Ventures」ファンドを設立

本年8月、(株)フィールドマネージメントと共同で、広告ニーズのあるベンチャー企業向けに投資を実施する「Ad Hack Ventures」ファンドを設立。

ベンチャー企業が「広告目的」で先行投資のための資金を調達することが難しい環境下、当ファンドではベンチャー企業を対象に総額18億円（1案件当たり数億円規模）で運用予定。

資金面でのサポートに加えて、フィールドマネージメントからはコンサルティングサービス・戦略定着までの実行支援、TYOからはクリエイティブエージェンシーとして多くのベンチャー企業の広告を手掛けてきた経験・知見・実績を幅広く提供する方針。

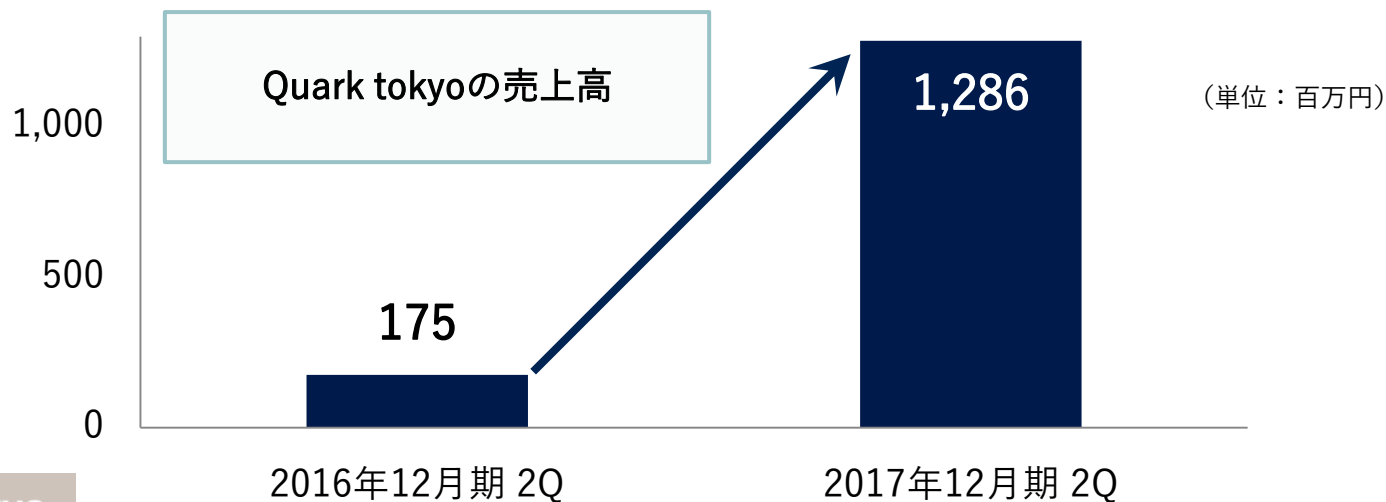
《Ad Hack Venturesの概要》

- 名称 : Ad Hack Ventures (アドハックベンチャーズ)
- 形式 : 有限責任事業組合 (LLP)
- 運用総額 : 18億円 (予定)
- 投資対象 : 広告やプロモーションを通じて短期間でのユーザー獲得や市場での認知向上を求めるベンチャー企業
- URL : <http://ahv.tokyo/>



ソリューション事業における取組み ②

- Quark tokyoが始動から2年目となり、力強く成長
- 好調な案件受注により、売上高は前期比732.3%増加と大幅に伸長



Quark tokyo

各領域のスペシャリストを集結し、動画を中心としたオンラインコンテンツの戦略立案、企画、制作、データ解析、メディア配信までのPDCAソリューションをワンストップで提供する体制を構築している。

ソリューション事業における取組み ③

■ AOI Pro. が手がけるAOI VRの発展に伴い、事業の展望が具体化

“CREATIVE × EMOTION”

クリエイティブ

感情

心を動かす体験の企画・制作
体験型コンテンツの開発

映像は「視聴」から「体験」へ
映像とテクノロジーを融合させた体験型
コンテンツの開発、活用を推進



2016

2017

“EMOTION × DATA”

感情

データ

感情の数値化による「インサイト」の把握
「VR Insight™」

高精度なシミュレーターであるVR体験によっ
て感情を動かし、そこから得た生体反応デー
タを解析・フィードバックする、新しいサービ
スラインの確立

マーケティング領域への展開、商用化を推進

VR ON AIR TEST

with VR Insight™

“DATA × INDUSTRIES”

データ

産業

データを媒介として人や機械、企業や
産業がつながりあう未来の創造

テクノロジーは他社との共同開発分野、
データの収集・解析は投資対象分野とし、
ビジネスを推進

医療・教育・娯楽等様々な産業において
革新的なサービスを提供



事例紹介 – AOI Pro.

VR「VR ON AIR TEST (VR OAT)」

VRをビジネス活用するサービスライン「VR Insight™」第一弾サービスのプロトタイプを発表

「VR OAT」は、VR空間で映像を視聴する人の生体反応(視線、脳波、心電心拍等)を取得、さらに視聴前後のアンケートデータと組み合わせることでリサーチを強化するという映像評価の仕組み。

AOI Pro.、アルティテュード、BlueMeme、FOVE、ニューロスカイジャパン、アップフロンティア、ブライセンが共同で、2017年3月より開発を始動した「VR Insight™」の第一弾サービスとなる。

「リアルな反応」を扱うのが特徴で、本人でも気づかない無意識(深層心理、潜在意識)による意思決定や行動を科学的に把握し「映像が心におよぼす影響」の解明も目指す。

今後商用化を推進するほか、「VR Insight™」をベースにした新しいビジネスデザイン、サービス開発に積極的に取り組んでいく。

※「VR Insight™」の仕組みとシステムについて特許出願中



5. 株主還元、株式情報

2021年度に目指すKPI – 株主価値の最大化

- 株主価値の最大化のため、資本効率（ROE）の改善と株主還元（配当性向）の向上に努める
- 株主資本コストを上回る収益率が期待できるプロジェクトに積極投資し、EBITDAの最大化を図る

ROE

12%以上

EBITDA

利払/税/償却前営業利益

80億円

配当政策の方針

- 連結配当性向を30%以上とし、
実質的利益水準の向上に伴う配当の増額を目指す
- 継続的かつ安定的な配当を行う観点から、
DOE（純資産配当率）も指標とし、その向上を図る

連結配当性向

30%以上

DOE
純資産配当率

4%目処
(2021年12月期)

株主優待制度

- 毎年6月30日現在の株主名簿に記載または記録された、当社株式500株以上を保有する株主様を対象に、下記の株主優待を実施

オリジナルクオカードの贈呈

500株以上保有	3,000円分
1,000株以上保有	5,000円分
2,000株以上保有	10,000円分



撮影付オリジナル写真集の作成

500株以上保有（応募された方の中から抽選で40名）

AOI TYOグループの(株)ホリーホックが運営する、写真スタジオhollyhock 東京ミッドタウンにて撮影を行い、写真集を贈呈。
 (商品名：『GraphBook™』)

※「GraphBook™」はhollyhock Inc.の登録商標です。



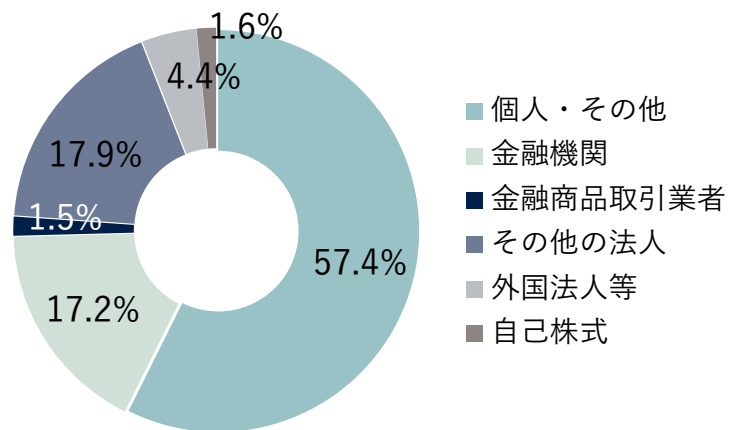
株式・株主の状況

※2017年6月30日現在

株式数・株主数

発行済株式総数	24,566,447株
株主総数	16,430名

所有者別株主構成



大株主の状況

	株主名	所有株数	持株比率
1	(株)コスモチャンネル	1,373,740	5.68%
2	日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	1,155,800	4.78%
3	(株)イマジカ・ロボットホールディングス	1,018,000	4.21%
4	フィールズ(株)	879,660	3.64%
5	吉田 博昭	555,425	2.30%
6	日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	441,900	1.83%
7	原 仁	400,000	1.65%
8	原 文子	328,000	1.36%
9	AOI TYO Holdings従業員持株会	321,738	1.33%
10	日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口5)	297,700	1.23%

※持株比率は自己株式(382,645株)を控除して計算しております。

会社概要

会社名 (フリガナ)	AOI TYO Holdings株式会社 (アオイ ティーワイオー ホールディングス カブシキガイシャ)
代表者	代表取締役 吉田 博昭 代表取締役 中江 康人
設立	2017年1月4日
資本金	50億円
決算期	12月31日
本社所在地	108-0072 東京都港区白金1-27-6 白金高輪ステーションビル 7階 03-5475-7121 (代表)
証券コード	東証一部 / 3975
URL	http://aoityo.com/

免責事項

当資料には、当社の計画と見通しを反映した将来予想に関する記述を含んでおりません。

かかる将来予想に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否等、不確実な要因の影響を受けます。従いまして、実際の業績はこの資料に記載されている将来予想に関する記述とは大きく異なる場合があることをご承知おきください。

また当社は、この資料の開示後において、かかる将来予想に関する記述を更新して義務を負うものではありません。

ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。
財務・IR部 (03-3779-8415)